

## 「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.48

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

### クエ調理&試食会を開催しました

11月18日、岩手大学三陸水産研究センターを会場に、三陸(SANRIKU)水産研究教育拠点形成事業として東京海洋大学が取り組んでいる陸上養殖の「クエ」の調理&試食会を開催しました。

この調理&試食会は、最先端の陸上養殖研究と三陸地域では漁獲されない高級魚・クエの味を紹介する機会の提供、さらには陸上養殖の事業化を検討している方々を対象とした相談の場として開催され、地元の漁協女性部、水産関係者、飲食店関係者ら約50名が参加しました。

調理&試食会に先立ち、東京海洋大学の遠藤雅人助教が、クエの特性と釜石サテライトに導入している閉鎖循環式養殖システムについて説明しました。

閉鎖循環式養殖システムは、様々な水処理技術を使って陸上施設内で飼育水を循環させて魚介類を飼うシステムで、水温や光を調節できます。そのため、釜石においても、本来は千葉県以南の温かい海域に生息するクエが好む26度の水温に保つことができ飼育が可能

となります。

参加者の方々には、閉鎖循環式養殖システムや飼育槽で活発に泳ぐクエの稚魚を見学いただくとともに、調理&試食会では、海宝漬で有名な有限会社中村家の島守隆社長の調理指導のもと、クエ鍋の調理に挑戦してもらいました。

また、鍋料理の他、刺身や塩焼きなどが用意され、バラエティーに富んだクエの味覚を楽しんだ参加者からは「身がぷりぷりして美味しい」「どの料理法も合い、すっきりとした味わい」などの感想が聞かれました。

岩手大学・東京海洋大学・北里大学が連携して取り組んでいる三陸(SANRIKU)水産研究教育拠点形成事業は、従来の水産業に科学的根拠に基づく付加価値を加え、水産業の高度化やブランド化を目指す事業です。今後、釜石産の養殖クエが誕生し、新しい目玉商品として地域おこしや観光業とのコラボレーションに活用されるよう、研究を進めていきます。



中村家の島守隆社長と調理に使用したクエ



クエのお刺身



クエを湯通ししてから鍋に入れます



クエ鍋、完成です!

### 陸前高田ふれあい市場の装飾を行いました

11月7日、三陸復興推進機構教育支援部門芸術・体育支援班では、陸前高田市米崎地区で「さいさいプロジェクト」に取り組みました。

このプロジェクトは教育学部芸術文化課程美術・デザインコース3年生の12名がアートを通じて、地元の産直を応援するとともに野菜等で沿岸被災地を元気にしようというものです。

米崎地区の道路沿いにある産直「陸前高田ふれあい市場」は、道路側の南壁面が殺風景であるため、通行車両が気付かずに通り過ぎてしまうことが度々ありました。困っている産直のスタッフから相談を受けた学生達はこの問題を解決するため、産直の外装装飾に立ち上がりました。

しかし、この建物はレンタルのため、ペインティングはできません。そこで学生たちが注目したのが看板用のケミカルシートです。剥がすことができるケミカルシートを使い装飾を行うことにしました。

産直で扱っている品物をリストアップし、その中から陸前高田市の特産である北限のゆずを中心に野菜を選びました。色は統一感を出すため、ゆずの黄色、トマトの赤、ナスの紫、キュウリの緑、ニンジンオレンジをイメージした5色に絞り



野菜の形決めをしている様子

込み、それぞれの野菜を3つのサイズに切り出しました。学生たちは大学で何度も装飾のシミュレーションを重ね、当日、現地でレイアウトを勘案しながら形を決めて完成させました。

この野菜の装飾を目にして、今までより多くの人が産直に訪れることを願っています。

また、皆様も陸前高田市を訪問する機会がありましたら、カラフルな野菜が目印な「陸前高田ふれあい市場」で地元の新鮮な野菜や果物を購入してはいかがでしょうか。



完成させた装飾とプロジェクトメンバー

# 岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、人と動物の共生をめざした支援活動を進めている生活支援部門の活動の一例をご紹介します。

## 人と動物の共生をめざした支援活動

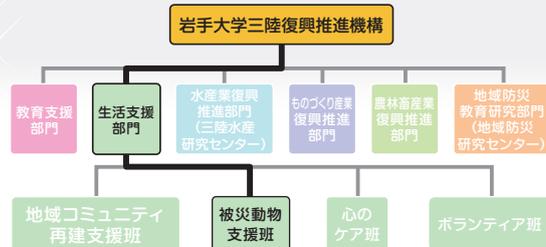
～5年目の復興支援 新たな支援ニーズに対する活動報告～

岩手大学三陸復興推進機構 生活支援部門 被災動物支援班  
山崎 弥生（三陸復興推進機構 特任研究員）

動物と暮らすことは、人に癒しを与え精神的な安定を導くとともに、健康の維持・増進など、社会生活の安定に大きく寄与します。被災動物支援班は、被災動物の健康維持のために飼養環境を良くしたり、社会の中で人とよい関係を保つためのルールを動物に身につけさせたり、被災者の方々が動物を通じてコミュニケーションできる場を提供したりしています。

震災直後から行って来た「ワンにゃんレスキュー」は、これまでの活動に加え、動物愛護団体に保護されている被災動物の支援も行っています。震災から4年経った今も、引き取り手のいない動物たちが数多く保護されています。譲渡会などで里親の方に安心して引き取っていただけるよう、保護動物の健康管理や感染症予防、飼育・衛生管理の助言などを行っています。

また被災地で行って来た「動物なんでも茶話会」や犬のしつけ教室を、各自治体や地域で自立して活動できるよう支援しています。新しい土地や復興住宅などへの転居が進むにつれ、ペット飼育の環境の変化などに戸惑う被災者の方も多くいらっしゃいます。またペットを飼っていない方にも、ペットを飼うことについて理解してもらう必要があります。交流の場を作ること、コミュニティの形成を支援しています。



さらに獣医療の質的向上をめざし、獣医師向けセミナーを附属動物病院にて定期的に開催しています。講演だけでなく、最新の医療機器の実技演習や技術講習なども行い、臨床獣医師の育成・卒後教育に貢献しています。

大動物グループでは、福島第一原子力発電所事故帰宅困難区域の牛に対して、Quality of lifeの確保と向上、飼育農家の支援のための一般診療、繁殖管理指導、牛群内での序列闘争緩和のための除角や、鼻鏡装着を引き続き無償で行う予定です。

震災から4年経過した今、支援ニーズも多様化していますが、被災動物支援班は今後も可能な限り支援を継続していきたいと考えています。



動物愛護団体での移動診療



獣医師向けセミナー

# 宮古エクステンションセンターだより

紅葉も一気に落葉し、峠筋も冬らしい景色になってきました。路面凍結も気になる時期です。より一層安全運転に努めましょう。

宮古の冬の海産物と言えば毛ガニです。2月21日には第14回宮古毛ガニ祭りが開催されます。是非、冬の宮古へお越しください。それでは宮古の近況をお伝えします。

## ●シルバーQueenが寄港しました!

平成27年3月、川崎近海汽船株式会社は、平成30年春に宮古港-北海道室蘭港を結ぶ新たな航路を開通すべく検討に入ったことを公表しました。宮古室蘭間を10時間で結び、一日一往復の運航をする計画です。

開港400周年を迎える宮古市は、宮古-室蘭間フェリー航路の実現に向けて、フェリーを実感し、フェリーチャーターにより航路開設計画の周知と地域の復興に弾みをつけることを目的とし、宮古港開港400周年記念事業「フェリーショートクルーズ」を開催しました。

11月15日、真っ白な船体に水色のラインをあしらったシルバーQueenが宮古港藤原埠頭に入港しました。普段は八戸-苫小牧間を運航している船体が宮古港に現れる姿は、新鮮な光景でした。当日午後には、市民ら500余名を乗せ、宮古沖から岩泉町小本沖までを周遊する二時間ほどのショートクルーズを行いました。子供連れの方も多く参加しており、船旅の楽しさの一端を味わえた事でフェリーをより身近に感じてくれたと思います。

ショートクルーズ乗船は公募で行いましたが、およそ1300名の応募があり市民のフェリー就航に対する



朝日を浴び出航を控えるシルバーQueen (宮古市産業支援センター港湾振興室提供)

関心の高さが伺えました。

三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路等の開通とフェリー就航により、物流や観光に大きな効果を発揮し新しい三陸の発展につながることを期待します。

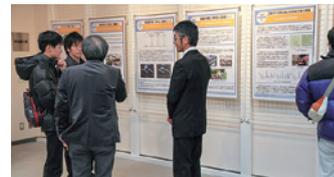
## ●SANRIKU プロジェクト 水圏環境部門 研究成果報告会

東京海洋大学、北里大学と連携し取り組んでいるSANRIKU水産研究教育拠点形成事業には、水圏環境、養殖、加工、マーケティングの四つの部門があります。その中の水圏環境部門成果報告会が、12月5日岩手県立水産科学館展示室にて開催されました。十件の研究報告が研究者により行われ、一般市民も含め多くの方に参加いただき盛況に終わることができました。

また、報告会に先立ち、研究成果パネル展示を行いました。森林から河口、そして沿岸域に及ぶ環境について、また、そこに生息する生物に関わる研究調査等、多くの研究課題の成果が3週間にわたり展示され、多くの市民に研究調査活動の成果を紹介することができました。



成果を発表した報告会



展示された研究成果パネル

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

## 連絡先 岩手大学三陸復興推進機構 宮古エクステンションセンター

〒027-8501 岩手県宮古市新川町2-1  
宮古市役所 宮古市産業振興部宮古市産業支援センター内  
電話:090-2886-8887 E-mail:miyako@iwate-u.ac.jp

# Information

## 岩手大学三陸復興推進機構シンポジウム

岩手大学  
三陸復興推進機構の  
取組をご報告します。



岩手大学イメージキャラクター  
がんちゃん

日時：平成28年2月7日(日) 13:00~17:30

会場：岩手大学北桐ホール(総合教育研究棟(教育系)1階)

内容：三陸復興推進機構6部門(教育、生活、水産業、ものづくり、農林畜産業、地域防災)の活動報告、三陸復興について考えるパネルディスカッション等 ※詳細については、後日、岩手大学ホームページ(<http://www.iwate-u.ac.jp/>)に掲載。

問い合わせ先 岩手大学三陸復興推進課 電話:019-621-6629 メール:sanriku@iwate-u.ac.jp

入場  
無料

こなた様でもご参加を歓迎